297号
発行/学校法人
大阪電気通信大学
住所/〒572-8530
寝屋川市初町18-8
電話/072-824-1131（代）
URL:http://www.
osakac.ac.jp/

大阪電気通信大学報
O.E.C.U.News

大学院（博士前・後期課程）
工学部第１部　工学部第２部
医療福祉工学部　情報通信工学部
総合情報学部　短期大学部
大阪電気通信大学高等学校

コナミスポーツ&ライフと産学連携

健康分野の人材育成と機器開発

東京で記者発表

産学連携合同記者発表会

握手する大石社長（右）と福田理事長

学校法人大阪電気通信大学（福田國彌理事長）と株式会社コナミスポーツ&ライフ（大石利光社長）は、健康に関する人材育成と機器開発の分野で産学連携することで合意し、9月26日、東京都品川区のコナミスポーツクラブ本店で記者発表しました。

コナミスポーツ&ライフは、「エグザス」ブランドで知られるフィットネスクラブ、スポーツクラブを全国に319施設（直営208、受託111）運営。コナミグループの一員として、健康関連機器やサプリメントの製造・販売も手がけるなど幅広い事業を展開しています。一方、大阪電気通信大学は2001年4月に医療福祉工学科を開設し、04年には医療福祉工学部に改組、早くから健康管理システムや医療福祉機器の開発を手がけてきましたが、来年4月には、医療福祉工学部に健康スポーツ科学科を新設し、スポーツ科学、健康情報学、健康運動指導学などのカリキュラムを通じて、スポーツにおける指導者と健康指導者を養成します。

今回の連携は、両者が持つノウハウを互いに提供・補完しあうことで、健康科学の分野で優れた指導者や技術者を育成するとともに、新たな健康関連機器の研究・開発を行うのが狙いです。人材育成では、コナミ側は健康スポーツ科学科の学部に健康スポーツ科学科を新設するとともに、全国展開しているコナミスポーツクラブで優秀な指導員の確保を目指します。また、健康関連機器では、運動実践時の安全確保を目的とした安全対策機器や、運動効果の確認を目的とした3次元測定装置などの共同研究・開発を行います。

記者発表で、福田理事長は「健康スポーツ科学科を開設するに当たり、コナミスポーツ&ライフとの連携・協力を通じて、日本の健康な社会づくりに貢献したい」と挨拶しました。また、大石社長は「我々の目指している健康サービス事業について方向性が合致したので連携することになった。健康関連機器の開発に大阪電気通信大学のエヴィデンスを取り入れて、スポーツを科学していくことで商品を開発していきたい。同時に優秀な人材を一緒に育てていきたい」と述べました。

このあと大学側からは、元場俊雄学長が大学の概要について説明。特に21世紀に入って、相次いで新学科を開設し、伝統ある工学・情報通信工学系の学科に加えて、工科系の実績を新領域に応用している現状を紹介しました。次いで医療福祉工学科の南部雅幸准教授が、健康スポーツ科学科の概要と産学連携の具体的な取り組みについて方向性を示しました。

大学の概要を紹介する元場学長

最後の質疑応答で記者側からの質問に対し、南部准教授はインターンシップについて「新学科では健康運動指導士、健康運動実践指導者と呼ばれる資格を取得できることを、カリキュラムに取り入れている。これはエクササイズやフィットネスの指導者を養成する資格で、実技実習はコナミスポーツ&ライフで受け入れていただきたいと考えている。具体的には2年次、3年次の学生に現場で学んでもらうことになると思う」と答えました。

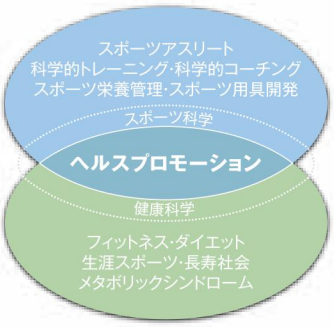
健康関連機器について説明する大石社長

また、大石社長は両者連携で行う健康関連機器の開発スケジュールについて「まず作っている商品を持ち込んで、研究・実験してもらうことが大事なことで、その準備に半年はかかると思う。早くて来年の年末あたりには成果が出てくるのではと期待している」と答えました。さらに、人材の受け入れについて黒川和輝副社長は「第1期の卒業生は4年以上先のことになるが、積極的に受け入れていきたい」と語りました。

「健康スポーツ科学科」2008年春開設

臨床医学と情報科学ベースに人材育成

健康運動指導士の資格取得も



来年4月、医療福祉工学部に開設される健康スポーツ科学科は、定員70人。高度な生体計測技術、運動解析技術、情報ネットワーク技術を、健康科学、健康スポーツ科学の分野に応用し、健康づくり、生活習慣病予防のための健康管理システムの開発や健康増進事業の分野で活躍できる人材の育成を目的にしています。

これまでに開設されている文系の健康スポーツ系学科と異なるのは、医療福祉工学科と理学療法学科を有する医療福祉工学部に開設し、臨床医学と情報科学をベースに健康スポーツを科学し、生活習慣病の予防、QOL（生活の質）向上に役立つ人材を育成する点にあります。

カリキュラムはコンピュータ関連の情報教育など基礎専門科目、共通専門科目に加えて、健康科学、健康運動指導学、スポーツ実技・健康づくり運動、スポーツ教育学、スポーツ科学、健康情報学といった専門科目を学習できるよう配慮されています。

健康増進に関わる健康科学とスポーツ科学に対する専門知識を持つ人材の必要性はますます高まるものと予想されており、そのような人材の活躍の場所は、病院、保健所、保健センター、フィットネスクラブ、老人福祉施設、介護保険施設、製薬会社、健康家電メーカーなどと、幅広く貢献できることが期待されています。

新学科では指定科目の修得により、健康運動指導士の資格を得ることができます。また、学科開設と同時に保健体育の教職課程も用意されています。

2008年度 入試日程

試験種別		学　部	出願期間	試験日	合否発表日
一般入試	前期A・B日程	工学部	1月7日～1月22日 窓口：1月23日	A日程：1月31日 B日程：2月1日	2月10日
	前期センター方式	情報通信工学部	1月7日～2月6日必着	――	2月16日
	後　期	医療福祉工学部 総合情報学部	2月15日～2月28日 窓口：2月29日	3月7日	3月16日
	後期センター方式		2月15日～3月10日必着	――	

※〒572-8530　寝屋川市初町18-8　TEL：072-824-1131（代）　FAX：072-825-4589
大阪電気通信大学入試部　　E―mail:nyushi@isc.osakac.ac.jp

2008年度入試資料の入手方法

テレメール：06-6222-0102
請求資料番号
「大学案内・入試ガイド」２１２５８７
「大学案内・入試ガイド・願書」２１２５８８
「入学願書」２１２５８６

ｉモード：http://shingakunet.com/osakac/

テレメールＱＲコード
携帯電話のバーコードリーダーで
読み込んでください。

中国・江南大との学術交流が始動

2009年春、留学生21人を受け入れ

現地説明会に210人参加

魚井総合情報学部長らプログラム紹介

今年5月に締結した学術交流協定に基づき、中国江蘇州無錫市の江南大学から留学生を受入れプロジェクトが具体的にスタートしました。9月7日、13時から同大学設計学院で、新入生を対象にした説明会が開催され、21人が2009年（平成21年）4月、大阪電気通信大学2年次に編入学する見込みとなりました。

江南大学で開かれた説明会

説明会には、大阪電気通信大学側から総合情報学部の魚井宏高学部長、デジタルゲーム学科の渡部隆志教授、佐藤札華准教授、デジタルアート・アニメーション学科の上田和浩准教授、江南大学から朱晋偉・国際教育学院副院長、王峰・設計学院副院長らが出席しました。また、江南大学各学院の新入生の参加は、7学科のいずれかの2年次に編入学し、その3年後には大阪電気通信大学の学位を取得する見込みです。

江南大学は、経済学部、理学部、工学部など9学部を持つ総合大学で、中国国家教育部が指定する重点大学。学生数は約2万3千人。

説明会は、魚井学部長の挨拶のあと、佐藤准教授がパワーポイントを用いて、大阪電気通信大学の紹介と留学プログラムについて説明を行い、続いて質疑応答が行われました。この結果、留学プロジェクトへの申込みは21人にのぼりました。

江南大学で総合科目と日本語の授業を1年半受けたあと、2009年（平成21年）4月に、大阪電気通信大学総合情報学部のデジタルゲーム学科または、デジタルアート・アニメーション両学科のいずれかの2年次に編入学し、その3年後には大阪電気通信大学の学位を取得する見込みです。

江南大学は、経済学部、理学部、工学部など9学部を持つ総合大学で、中国国家教育部が指定する重点大学。学生数は約2万3千人。

タイの大学生ら電通大訪問

先進的なアニメ、ゲーム教育見学

9月21日、タイから企業や大学関係者など27人が四條畷キャンパスのデジタルアート・アニメーション、デジタルゲーム両学科を訪れました。

一行は、国立エレクトロニクス・コンピュータテクノロジーセンター（NECTEC）のビダット博士を団長に、クワン博士（同センター副所長）、チェンマイ大学などの教員、大学生、高校生、それに企業、報道関係者。タイではアニメーションとゲームを大学教育に取り入れることが国策として掲げられており、この分野で先進的な総合情報学部の両学科のカリキュラム作りについて学ぶとともに、今後の人的交流などについても話し合うのが、目的です。

キャンパスに到着した一行は、まずデジタルアート・アニメーション学科の原久子教授の歓迎あいさつを受け、JIAMS（先端マルチメディア合同研究所）なども6・7号館の施設を見学しました。

続いて、タイ側から各大学生たちのアニメーション作品が紹介され、大阪電気通信大学側から、デジタルアート・アニメーション学科の上田和浩准教授、デジタルゲーム学科の佐藤札華准教授による学科の教育内容に関するプレゼンテーションが行われました。

このあと、大学院生や学生も参加して上月ホールで懇親会が開かれました。神崎和男教授によると、その席でNECTECのクワン副所長は大阪電気通信大学のような施設をNECTEC に是非作って、いろいろな大学で共同利用を図りたい」と話したとのことです。

なお、一行は翌22日、東京ゲームショウに出展中のデジタルゲーム学科ブースを訪問しました。

熱心に見学する訪問団

東京ゲームショウに出展

デジタルゲームから4作品

にぎわう電通大ブース

9月20日から23日まで千葉市の幕張メッセで開催された世界最大規模のゲーム展示会「東京ゲームショウ2007」（コンピュータエンターテインメント協会など主催）に、デジタルゲーム学科が参加し、ゲームスクールコーナーのブースで4作品を出展しました。

出展した作品は学内コンペで選ばれたもので①バーチャルリアリティーを応用したシューティングゲーム「PHANTOM」（出展代表者・梶木慎介）②スピード命のタッチパネル3Dアクションゲーム「SWING」（同・三宅俊輔）③XNAを利用したサイケデリックな雰囲気の3Dアクションパズルゲーム「PsyBlock」（同・森山哲名）④BGM復活2Dアクションゲーム「Rabbit Foot Concerto」（同・平井祥紘）――の4点。

主催者の発表によると、入場者は19万人を超える盛況で、大阪電気通信大学のブースも終日、見学者でにぎわいました。

東京ゲームショウに参加して

デジタルゲーム学科４年　梶木慎介

私たちは9月に幕張メッセで行われた世界最大のゲーム見本市「東京ゲームショウ」にデジタルゲーム学科として出展してきました。

昨今のゲーム市場の盛り上がりもあり、各ゲームメーカーもブース設営に力を入れ、我々のブースがあるゲームスクールコーナーでも、それぞれの学校がしのぎを削って様々なジャンルのゲームを展示していました。

中には我々のブースの数倍の面積に数多くのゲームを並べ、派手さと高い専門性でアピールする学校もありましたが、既存のゲームを意識して制作しているせいか、どの学校も似通ったゲームばかりでした。その点、私たちは今までにない入力機器や新しいアイデアのゲームを出展し、専門学校との差別化を図ることができたと感じています。

ブースの前で勢ぞろいしたチームメンバー（後列右から2人目が筆者）

特に業界関係者だけが入場できるビジネスデイでは、大手ゲーム会社の方々をはじめ、多くの方に高い評価をいただき、中には実験段階にある私たちのゲームを、安全面、コスト面をクリアした上で真剣にアミューズメントセンターなどで稼動できないか、一緒に考えてくださる方もおられました。一般来場者の方々からも映像出展のタイトルを見て「すごい！」「早く遊んでみたい！」という嬉しい声も聞くことができました。また、小学生くらいの子供たちが、電通大ブースの各ゲームに熱中している光景を見ることができ、ゲーム制作にやり甲斐を感じることができました。

今回が初出展ということで、わからないことも多かったですが、その分他のゲームメーカーや専門学校のブースから学ぶことも多く、非常に良い経験となりました。

【筆者の制作したゲームの概要】

私のチームが制作したゲームは、「ゲームの世界を体験する」というコンセプトで制作した、体感シューティングゲームです。

人体の動きを計測するモーションキャプチャーを利用し、プレーヤーの動きをそのままゲームに反映させることができます。さらにゲームのCGキャラクターからの一人称視点の映像を、リアルタイムでヘッドマウントディスプレイに映し出すことで、プレーヤーはゲームのキャラクターと一体になり、プレーヤーが首を横に向けるとゲーム中でも横を向き、プレーヤーが銃を構えるとゲーム中でも銃を構えるといったことができます。ゲームは360度あらゆる方向から襲ってくる敵を、動き回って回避しながら、ライフルで敵を撃退していきます。今までのゲームでは味わえない、圧倒的な臨場感がこのゲームの最大の特徴です。

まだまだ実験段階のゲームではありますが、大型のアミューズメントセンターなどでの稼動を想定し制作しました。

評価機構の認定と特色ＧＰ選定で講演会

大阪電気通信大学は平成18年度に自己評価報告書をまとめ、高等教育評価機構による実地調査をへて機関別認証評価をクリアしました。一方、数年にわたるユニークな取り組み「企業熟練技術者を活用した産学連携工学教育」は、19年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）に選ばれました。

10月12日、これにちなんで学外から都倉信樹大阪大学名誉教授（前鳥取環境大学教授）と慈道裕治立命館大学教養教育センター長を招いて、特別講演会が開催されました。

都倉氏の専門は情報工学、工学教育など。「学生のモチベーションを高める工学教育」をテーマに講演、大学全体で愛校心を高めるための鳥取環境大学での取り組みなどについて紹介しました。

また、慈道氏は「入口から出口までを展望した大学改革」と題し、Evidence—Based Education（証拠で基礎づけられた教育）の必要性などについて語りました。

大学祭（予告）

2007年の大学祭は11月22日（木）～24日（土）の3日間、寝屋川キャンパスで開催されます。テーマは「KANSHA」（感謝）。恒例のプロコンサートは23日（祝）で、アーティスト名は「GELUGUGU&STANCE PUNKS」。

報道から

竹田教授の点字板研究 大阪府プロジェクトに採択

日刊工業新聞

竹田晴見・電子機械工学科教授が㈱前田金属工業所などと企業コンソーシアムを組んだ「多様な材質に対応した点字板作成自動化装置の開発」が、中小企業を対象にした大阪府の「ロボット・情報家電分野での製品化プロジェクト」に採択され、9月3日付けの日刊工業新聞で紹介されました。

森本教授グループがMR流体活用の義足開発

日本経済新聞

医療福祉工学科の森本正治教授が大阪大学の古荘純次教授らと共同で、磁場がかかると粘度が変わる特殊な液体「MR流体」を活用し足首の関節部分を制御するブレーキを組み込んだ義足を開発。9月3日付けの日本経済新聞で紹介されました。

白石教授が岐阜県で子育てサポートの講演

中日新聞

人間科学教育センターの白石正久教授が9月13日、岐阜県可児市文化創造センターで開催された公開講座で講演し、14日付けの中日新聞で紹介されました。

講座は、託児ボランティアなど子育てに関するサポーターを育てるのが目的で、「発達の扉」などの著書のある白石教授は、「障害児も健常児も同じ。その子の発達段階を理解することが大切」などと語りました。

ETとロボットの魅力発信

四條畷キャンパスでイベント「パート2」

WRC関西地区予選

ET（Embedded Technology＝組み込みコンピュータ技術）やロボットのおもしろさ、ものづくりの大切さを体験して楽しむ「ET×ロボット2007パート2：みんなのロボット」が8月20日、四條畷キャンパスで開催されました。

7月のパート1「ETって何だろう?」と同様、「ロボットづくり教室」に小中学生が大勢参加して、ぶるぶるテントウムシやメカキリン、ボクシングファイターの製作に取り組みました。

コナミホールでは、ロボカップ世界大会ヒューマノイドリーグで4連覇した高橋智隆さん（ロボ・ガレージ代表、大阪電気通信大学メディアコンピュータシステム学科客員教授）が「これからのロボット」をテーマに講演。江戸からくりの復元に取り組んでいる峰崎十五さん（峰工房代表）が「弓曳童子」など多彩な江戸からくりの実演を披露しました。

また、レゴブロックのロボットキット「マインドストーム」で組み立てたロボットを使って世界中の子どもたちが競う「WRO」（ワールド・ロボット・オリンピアード）の関西地区予選会が開かれ、小中高校生の約50チームが参加しました。この予選の優秀チームは国内決勝のWRO Japanをへて、11月に台湾で開かれる世界大会に出場できます。

ロボット相撲 全国大会進出

電子機械工学科4年 大西さん

自由工房は、12月に東京両国の国技館で開催される「第19回全日本ロボット相撲大会」への出場者を決める地区大会に各地で参加していますが、電子機械工学科4年の大西信司さん＝写真㊤＝と同2年の三宅教仁さん＝同㊦＝が入賞し、全国大会出場を決めました。

このほか、自由工房からエントリーした高木明室長をはじめ講師陣が、優勝など上位入賞を相次いで果たし全国大会出場を決めています。

自由工房

ラブリーフェスタにヒト型ロボット出展

10月8日、門真市の京阪古川橋駅周辺で開催された「ふれ愛・にぎわい！ラブリーフェスタ07～22世紀へみらい100年祭り～」に、自由工房がヒト型ロボットのコーナーを出展しました。

このイベントは、古川橋南北地域活性化協議会の主催によるもので、古川橋駅周辺の公園や広場、駐車場などで、南中ソーラン踊りや高校吹奏楽部による演奏、スタンプラリー、ふれあい動物園、ゲームコーナー、バザー、模擬店、フリーマーケットなど、多彩なイベントが繰り広げられます。

コア古川橋駐車場の自由工房ブースにはリングがセットされ、午前と午後の2回行われたロボット操縦体験会では、チビっこたちがヒト型ロボットの操縦を楽しみました。体験会で操縦の上手だったチビっこが選ばれてトーナメント試合なども行われ、人気を集めました。

チビっこたちはロボットに釘付け

熱心な英語学習姿勢に高い評価

カナダＵＢＣ語学研修リポート

デジタルアート・アニメーション学科教授　リチャード・Ｈ・シェピー

大阪電気通信大学と同窓会・友電会の後援によるカナダＵＢＣ（ブリティッシュコロンビア大学）での語学研修には、８名の学生が参加し、カナダのバンクーバーから９月16日、無事に帰国の途につきました。ブリティッシュコロンビア大学キャンパスにあるイングリッシュ・ランゲージ・インスティチュートでの３週間にわたる短期留学プログラムは、英語集中レッスン、ホームステイからなり、カナダ人の暮らしを肌で感じる様々なアクティビティーが含まれていました。

この研修プログラムは、まず日本でアイネッツの山下明彦氏によるオリエンテーションからスタートしました。山下氏の手助けのもと、参加学生はパスポートを取得し、また入国手続きのさいの心構えやエチケットなどについて学び、バンクーバーに向けて飛び立つ時には、準備万端という感じでした。

バンクーバーではコンタクトカナダの中川さんの出迎えを受け、入国審査を経た後、私たちはバスでバンクーバー市内観光へ。Gastown、Granville Island では昼食と自由行動を、そして Stanley Park をまわり、宿泊先 Sandman ホテルへと向かいました。ホテルでは一同心地よい疲労のためか、ぐっすりと眠れたようです。

翌朝、コンタクトカナダによるオリエンテーションが行われました。Yooko 氏からは、ホームステイを快適に過ごすためのコツや、バンクーバーでの交通機関の利用法などの説明を受けた後、ホストファミリーの出迎えを受けました。

月曜日の朝、学生たちは、ＵＢＣ内のＥＬＩ（イングリッシュ・ランゲージ・インスティチュート）において、校長、クラスの担当教師、２名のアシスタントに会い、ＥＬＩの見学後、授業に参加しました。もちろん授業は英語で行われます。授業は活気に満ちており、学生も非常に楽しんだようです。またＥＬＩでの授業だけでなく、クラスを担当する

バーベキューパーティー

メンバー全員集合（後列右から２人目がシェピー先生）

アシスタントと学外で授業も行われました。この学外での授業はシラバスには含まれておりませんでしたが、学生のレベルや興味に即したものでした。

学生には４つのイベントが用意されておりました。バーベキューパーティー、カヤック体験、ロッククライミング、そしてフェアウィルパーティーです。バーベキューパーティーはプログラムの第一週目に開かれ、随行教員、ホームステイ先の家族も招かれました。学生たちはバレーボールをしてお腹をすかし、おいしくバーベキューをいただきました。皆、楽しいひとときを過ごし、お腹いっぱいでステイ先に戻りました。

コンタクトカナダ主催の特別企画も用意されておりました。フェリーとバスによるビクトリアを巡る日帰り旅行です。ビクトリアはブリティッシュコロンビア州の州都で、州政府の建築物や、ビクトリアの有名な港や Buchard's Garden など見て回りました。この日帰り旅行は非常に楽しいものでした。

さらにカヤック実体験や、屋内ロッククライミングもとても良い経験になったようです。ロッククライミングは最初取っ付きにくそうでしたが、経験豊かなインストラクターが学生の安全を第一に気を配ってくれたおかげで、最後には本当に愉快な経験となったようです。カナダの若者たちは、このような激しいスポーツを満喫しているようです。学生も激しいスポーツを体験したというだけでなく、きっとカナダの多くの若者のライフスタイルをも垣間見たことでしょう。

最後のイベントであるフェアウェルパーティーは、バンクーバーの繁華街にある Kirin 中華店で行われました。このパーティーには学生と、ＥＬＩのスタッフの方々、ホームステイ先の家族の方々、随行教員である私が参加致しました。学生たちには一人一人修了証書とＥＬＩのロゴ入りのＴシャツが手渡されました。学生たちも芸など披露するなど、一同パーティーをとても楽しみました。ホームステイ先のご家族は、「大阪電気通信大学の学生さんを迎えることができてとても良かった」と、話しておりました。担当教師の Mary さんは、参加した皆さんの教室内での学習態度、学習意欲、そして英語学習への熱心な取り組みを高く評価しておられました。　（訳・柏原郁子英語教育センター准教授）

カナダ訪問の思い出、冊子に

学生支援プログラム参加の18人

カナダのシェリダン、トロント大学との学生交換プログラムに今年参加した、総合情報学部メディア情報文化学科とデジタルゲーム学科の学生15人、教員3人が、その思い出をまとめた冊子「おもいでスーツケース」＝写真＝をまとめました。

冊子はA4判、写真を多く取り入れた140ﾍﾟを超える力作。カナダ側の学生の英文メッセージも寄せられています。

今年の同プログラムでは、3月9日から22日まで、18人がカナダを訪問。逆に5月7日から21日まで、カナダの学生が来日しました。

出展しました

「ASIA CONTENTS MARKET in Kansai」でデジタルコンテンツ作成事例

総合情報学部

10月１日、２日の両日、大阪市中央区のマイドームおおさかで開催された「ASIA CONTENTS MARKET in Kansai」に、総合情報学部のデジタルコンテンツ作成事例を展示＝写真左＝しました。

このイベントは、デジタルコンテンツ関連事業者や学生・研究者などによる新しい技術や、ソフトウェアなどデジタルコンテンツ関連の研究成果発表とのマッチングの場。

展示では、総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科が最先端の技術と豊かな想像力、幅広い研究活動を通じ「芸術文化産業」に貢献できるクリエイティブな人材を育てていること、学生作成ドラマをはじめとするデジタルコンテンツ作成事例、その拠点である最先端マルチメディア合同研究所（ＪＩＡＭＳ）についてＰＲしました。

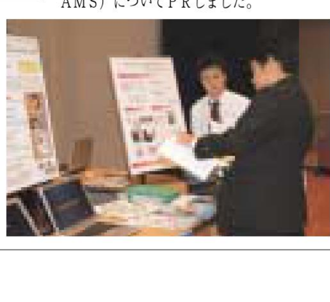
情報通信機器展／ユニバーサルデザイン生活展で福祉機器紹介

医療福祉工学部　吉田研・新川研

９月15日、16日の両日、大阪府堺市の国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）で開催された「情報通信機器展／ユニバーサルデザイン生活展」に、医療福祉工学部の吉田研、新川研が出展＝写真右＝しました。

同展は「第５回共に生きる障害者展」と同時開催されたもので、両研究室は障害者と健常者が共に遊べる福祉エンターテインメント機器を中心に紹介しました。

具体的には①手足を使わず、寝たきりのままで楽器の演奏をしたり絵を描く②障害者と健常者が共通のルールの下で平等なゲームを楽しむ――などで、新川拓也准教授が、15日午後のセミナーで、展示した研究についてくわしく紹介しました。



「人工膵臓チップ」でユニバーサルデザイン賞特別賞

長倉・医療福祉工学部教授　グッドデザイン賞

受賞後、記念撮影に応じる長倉教授

浸透圧バルブ

医療福祉工学部医療福祉工学科の長倉俊明教授が、２００７年度グッドデザイン賞（Gマーク）新領域デザイン部門でユニバーサルデザイン賞を受賞しました。

受賞した研究は「生体エネルギー利用の人工膵臓チップ」。受賞説明の概要によると、現在の人工臓器は、生体に満ちている情報とエネルギーを利用せず、外部より電力などで駆動されていますが、この浸透圧ポンプは、外部からの制御とエネルギーフリーの糖尿病治療を行う人工膵臓チップを目指しています。

長倉先生は、研究の目的について「現在７００万人いると言われている糖尿病患者は将来網膜症により失明や、腎不全により人工透析の危険がある。その苦痛を軽減させ、病気への不安と不自由からの解放と、そこに投入されている巨額の医療費も軽減させ、社会に貢献すること」とコメントしています。

また、審査員は「浸透圧という生体エネルギーを活用したエネルギー利用せず、糖尿病治療を行う人工膵臓チップを目指しています。

長倉先生は、研究の目的について「現在７００万人いると言われている糖尿病患者は将来網膜症により失明や、腎不全により人工透析の危険がある。その苦痛を軽減させ、病気への不安と不自由からの解放と、そこに投入されている巨額の医療費も軽減させ、社会に貢献すること」とコメントしています。

また、審査員は「浸透圧という生体エネルギーを活用したエネルギーフリーの糖尿病治療用人工すい臓で、環境貢献、患者の負担軽減、日本が誇るマイクロシステム技術の活用など、リサーチデザインのお手本ともいえる優れた研究開発提案である」と評価しています。

グッドデザイン賞は、１９５７年に旧通商産業省が創設した「グッドデザイン選定制度」を継承したもの。財団法人日本産業デザイン振興会が主催する日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の運動で、世界に誇るデザイン賞と言われています。

２００７年度は、約３０００件の応募に対し、１０４３件（企業数５９４社）が選ばれました。

ユニバーサルデザイン賞は、特別賞の一つで、「福祉的な視点に配慮し、広範な使用者による使用を可能とした商品および施設等のうち特に優れていると認めるもの」に与えられますが、今年度は長倉教授の研究と、三菱電機㈱（タッチパネルを用いた可変インタフェースによる携帯電話でのユニバーサルデザインの取り組み）の２件が選ばれました。

なお、10月25日東京で、経済産業省から長倉教授に賞が授与されました。

エネルギー管理士に合格

環境技術学科　葛木さん

葛木さん

環境技術学科添田晴生研究室の葛木大輔さん（工学部第２部機械工学科４年）が、エネルギー管理士の国家資格の試験に合格しました。

エネルギー管理士は、大規模な工場や施設で、エネルギーを適正に管理し、省エネルギーを推進していく責任が与えられます。最近は、地球温暖化対策として省エネルギー化に力を入れる企業が増えており、エネルギー管理士へのニーズが高まっています。

環境技術学科でエネルギー管理士の資格取得を支援している添田先生は「本学からエネルギー管理士の試験を受けて合格したという例はあまり聞いておりません。今回、彼が合格したのは彼の努力によるもので、高く評価したいと思います」と話しています。

教育懇談会に500組が参加

大学の教職員と父母・学生が、大学生活について懇談する教育懇談会が、９月29日の寝屋川・四條畷両キャンパスを皮切りに、姫路（10月６日）、広島（６日）、神戸（７日）、京都（13日）、高松（13日）の各地で開催されました。

今年は約５００組が参加し、中には両親と学生の３人で訪れ、担当教員や職員と熱心に話し合う姿が見られました。

新任教員

入部正継（いりべ・まさつぐ）＝電子機械工学科講師

１９９１年大阪府立大学工学部機械工学科卒。93年同大学院工学研究科機械工学専攻制御工学コース博士前期課程修了、ソニー㈱入社。２００７年神戸大学大学院自然科学研究科機械・システム科学専攻博士後期課程修了。博士（工学）、39歳。

先輩！　こんにちは

京都・下鴨神社で流鏑馬の射手

㈱サクラクレパス　情報システム部　佐保川　誠さん

今年５月４日の朝日新聞朝刊に掲載された京都・下鴨神社での流鏑馬（やぶさめ）神事。この記事の写真に写っている射手は、１９８３年（昭和58年）に経営工学科を卒業した佐保川誠さん。弓道部のOBで、卒業後も小笠原流流鏑馬を続ける佐保川さんを、大阪・森ノ宮のサクラクレパス本社に訪ねました。

――弓道はいつごろから？

佐保川　高校時代からです。それで大学でも弓道部に入ったんですが、弓道部の創始者とも言える先輩が、私と同じ奈良に住んでいる関係もあって、小笠原流をやってみないかと誘われ、始めました。

――小笠原流について、もう少し詳しく教えてください。

佐保川　正式には小笠原流弓馬術礼法と言います。鎌倉時代から８００年以上継承されています。足利、徳川期を通じて、将軍家の師範として礼法・弓術（歩射）・弓馬術（騎射）の道を守ってきました。

――佐保川さんが射るのは、下鴨神社だけですか。

佐保川　いえ。全国の神事に出かけていきます。９月には鎌倉の鶴岡八幡宮で行われた例祭に行ってきました。

――後輩に一言。

佐保川　特に後輩にというわけではないのですが、こんな古風なことをやっていると、人間は決して自分だけで生きているんじゃないというのを、感じるんです。ですから、８００年の重みを、私も後世に伝えていかねばという思いを強く持っています。できれば、弓道部に限らず若い熱意のある方で私に続く人が出てくれれば嬉しいですね。

――練習はどんな風に？

佐保川　休日に京都や奈良で稽古をします。実際に馬に乗って本番並の練習をするのは難しいですから、回転する木馬を使います。

――流鏑馬の魅力は何ですか。

佐保川　弓をやる人は多いですが、流鏑馬は簡単にはできません。一つ間違うと事故につながりますし。20秒ほどの間に３回矢を放ちますが、この瞬間のために１年を通して練習を積み重ねるんです。矢を放ち終わって、大勢の観客の皆さんから拍手をいただいたときの達成感は、言葉では言えませんね。それに、やればやるほど深くなるのが、流鏑馬です。これも魅力ですね。

――ところで、大阪電気通信大学に入ったのは、どんな理由からですか。

佐保川　大層な理由はありませんが、強いて言えば、身体が弱かったので、技術を身につければと思って大阪電気通信大学を選びました。卒研は下村武先生。専門はファジー関連技術でした。サクラクレパスでは、入社以来ずっとコンピュータ関係の仕事をしています。

株式会社サクラクレパス

本社　〒540-8508　大阪市中央区森ノ宮中央１丁目6-20
電話　06-6910-8819
会社のホームページ　http://www.craypas.com/
小笠原流のホームページ　http://www.ogasawara-ryu.gr.jp/

でんだい俳壇

羽田　岳水　選

笑む果の落ちつぐ丹波口晴れて　馬酔木燕巣会主宰　羽田　岳水
赤とんぼ夕日の空に同じ色　時岡　範行
寝転びてふと見し空に鰯雲　時岡　範行
運動会走る子供ら健闘し　羽場　裕一
太陽の優しく照りていと涼し　羽場　裕一
子のためと生まれし郷に鮭帰る　笹　宏次
目を盗み秋刀魚くはへて猫逃げし　笹　宏次
甘藷枯れ葉集めて焼きにけり　砂口　直彦
秋の日の窓一面に鰯雲　砂口　直彦
耳澄まし聞くや稲田のせせらげる　加嶋　和生
空一面里と変はらぬ鰯雲　加嶋　和生
長袖にあわて着替へし秋彼岸　烏谷　大樹
夕焼けの空絨緞の鱗雲　烏谷　大樹
落ちゆく日脚しく飛ぶや秋茜　辻　雅大
散歩道綺麗に咲き彼岸花　辻　雅大
大漁の空に広がる鰯雲　久保　和樹
太陽に染まりて飛ぶや赤とんぼ　久保　和樹
稲刈りにいぜはし親の背中見し　佐藤　拓真
赤とんぼあなたはどこに飛んで行く　佐藤　拓真
秋空に高く広がる鱗雲　伊敷　勇人
自転車と並び飛びたる秋茜　伊敷　勇人
秋空の夕日に染まる鱗雲　田中　克典
夕暮れの真っ赤に染まる秋茜　田中　克典
陽光を浴びて稲田を刈り急ぐ　西原　一嘉
久々に父と歩くや秋茜　西原　一嘉